

本堂改修工事の日記

萬年山 東陽寺



目次

一、はじめに	(3)
二、本堂改修工事調査	(4)
三、本堂改修工事概要	(7)
四、収支報告	(13)
五、月次スケジュール	(14)
六、本堂改修工事風景あれこれ	(17)
(一)床下補強・本堂内筋交い追加状況	(17)
(二)瓦降し作業風景	(17)
(三)屋根小屋補強	(18)
(四)屋根葺替え	(20)
(五)本堂からの発見	(22)
(六)本堂改修工事完了後宿舍撤去	(23)
七、寄付一覧	(23)
八、あとがき	(24)



屋根小屋・軒先補強
平成21年12月・平成22年1月



解体工事 平成21年11月

一、はじめに

晴れた一月の昼過ぎ、平成二十一年四月に完成した客殿から、改修終わった本堂をゆつくり眺めていました。重厚な趣で、なんと美しいことだろうか。隆満和尚も、あの世から喜んでいるだろうと、一人ぼんやりしていました。そんな時、昨年三月十一日、東日本大震災の時の記憶が、よみがえります。長震動で激しく揺れ本堂がつぶれるのではないかと思ったことがウソのようです。

これも良きパートナーとして亀山建設に出会い、見事な客殿が立ち、さらに本堂改修工事が完成し補強されたことにほかなりません。

この本堂改修工事が早期に出来た理由は、何と言っても客殿建立の費用が大幅に縮小され、本堂改修工事用資金として繰越金が三千万円も出来たことと、平成二十年八月の本堂改修工事調査に思いもよらず重大な欠陥（本来萱葺屋根構造の所を、瓦屋根であることによる丸太の破損・たわみ・軒先下がり・瓦の劣化等重なり）が発見され早期に対応をしなければいけない状況にあったこと、さらに客殿建立に続けて本堂改修工事を行うと宿舎・電気・水道・鉄板養生等の架設工事が必要なくなり百万円減額されると後押しがあり、少し無理をしても、本堂改修工事を行おうと決めたことにあると思います。

この客殿建立・本堂改修工事の成功は、亀山建設の力はもちろんのこと、東陽寺の御檀家様の暖かい力添えと当山歴住のご威尽力によるものにほかなりません。本当にありがとうございます。最後に一言、客殿・本堂を通じて丸二年間、駐車場で宿舎を構え生活した大工さんや職人さんへ、手作りの差し入れや毎日のお茶出しに大変だった大黒に感謝します。この喜びを「客殿建立の軌跡」の第二弾として、本堂の改修工事の様子を皆様に紹介しようと「本堂改修工事の日記」と題し、作成しました。御一読をお願い申し上げます。

合掌

平成二十四年一月吉日

東陽寺住職 梅観幸朋 九拝



二、本堂改修工事調査

(一)実地日

平成二十年八月十一日～十三日

十月二十四日・二十五日

(二)亀山建設

三名により実施

(三)調査結果

屋根小屋の梁・筋交い・丸太に裂けやたわみが有り、補強の必要を指摘された。(参照 三、本堂改修工事概要七ページ)

瓦の葺替えに併せ本堂改修工事(補強工事)を行うことに決定した。

(四)本堂傷み状況写真

「昭和十三年建立した本堂全景」



「屋根小屋梁の柄が浮いている」



「屋根小屋内 つなぎ目の所が浮いている」



屋根小屋内 「裂けている所がある」



屋根小屋内 「柱が細い」「中心よりずれている」



屋根小屋内 「つなぎ目が良くない。裂けている」



屋根小屋内 「繋ぐ目が不良」



屋根小屋内 「筋交いが折れている」



屋根小屋内 「繋ぎ目が外れている」



屋根小屋内

「左の柱の下の部分にひび割れ」



屋根小屋内

「細い木で組み合わせている」



「本堂屋根小屋に大量なワラ」



「向拝の軒先腐り状況」



三、本堂改修工事概要

(一)本堂改修工事の内容

改修工事は、大きく三つに分けられます。

第一には、屋根裏小屋補強・本堂内壁補強・床下基礎補強等の本堂補強工事。第二には、瓦葺き替え工事。第三には、冷暖房設備・本堂水洗い工事・畳替等の雑工事です。

この中で第一の本堂補強工事は、かなり大掛かりな工事这么大的な大きな木(42cm×30cm・長さ5mもある松の大木二本)を使うとは、思いませんでした。

それに比べ今回はじめて寺の本堂屋根裏を見て、柱が意外に細いことに驚きました。最も太い木でも25cmで、あとは20cm前後の木を木の曲がりそのまま使い、ものの見事に組み合せているのが昔の本堂の現状です。ある意味では、昔の宮大工の技術のすごさを感じさせられました。

この補強工事は、見た目ではわからない所が多く補強されています。以下補強場所毎に紹介します。

(二)本堂補強工事

(a)屋根小屋の補強

今回亀山建設の補強の目玉は、何と言っても屋根小屋補強です。補強の第一は、本堂の中心である四本の通柱を上からしっかりと押さえるように通柱の上に42cm級の柱が

二本渡されました。以前は二本だけが通柱の上を通していましたが、今回追加により、正しく四角形で固定され屋根全体の補強につながりました。

小屋補強の二番目は、調査で発見された小屋梁の亀裂部二箇所、両側から新規材を添えて補強しました。

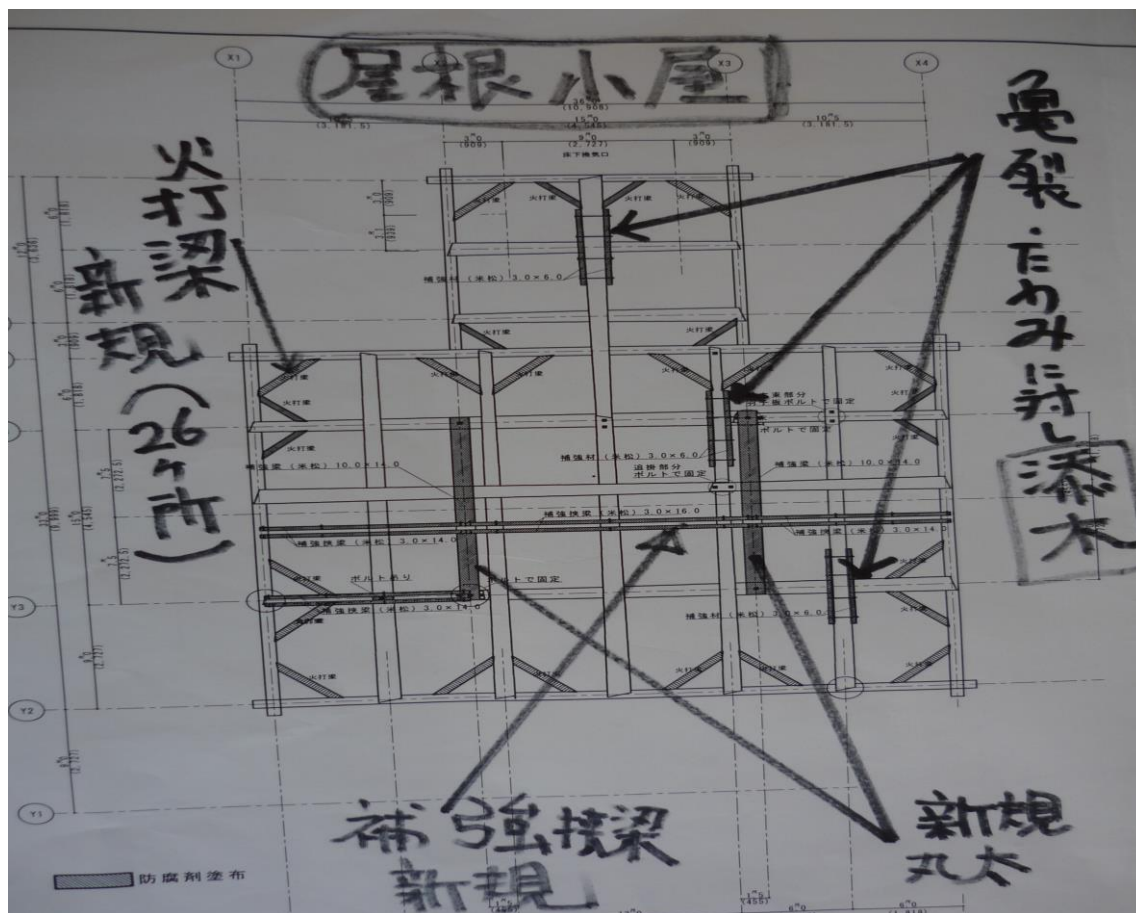
次に三番目の補強は、少し下がった軒先を引き上げる為の工事です。

軒先の桔木の間隔を一間に狭ばめ、現状の桔木間隔の真中にあらたに桔木を入れ、さらに屋根の四隅には、新規桔木丸太を二本づつ、6箇所設置しました。

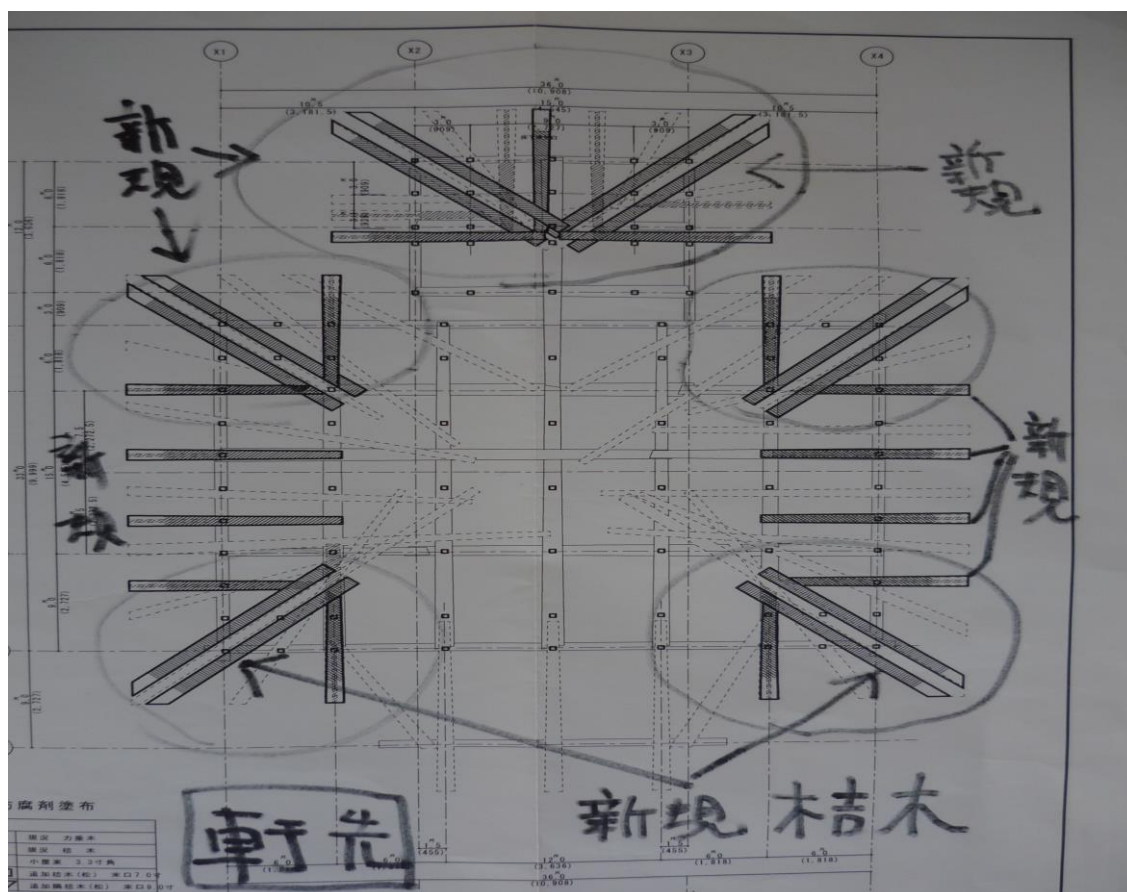
また、屋根小屋の各種角隅に火打梁26本が打たれました。屋根小屋に筋交い(6cm×15cm角の板)を80枚が新規に追加され補強されました。



「屋根小屋で補強した図」



「屋根の軒先引き上げる補強」



(b) 本堂内壁の補強

本堂の壁十三箇所、上下ダブルに24cm×9cm×約3mの板68本を使い、X型に筋交を入れ補強した。さらに客殿側の壁三箇所は、防火構造になっています。



(c) 床下基礎の補強

火打梁15cm角を四箇所設置しました。土台(18cm×18cm×約3mの柱)二箇所新設。土台の柱一本腐っている所を根継し、プレートで挟み補強しました。



(三) 瓦葺替え工事

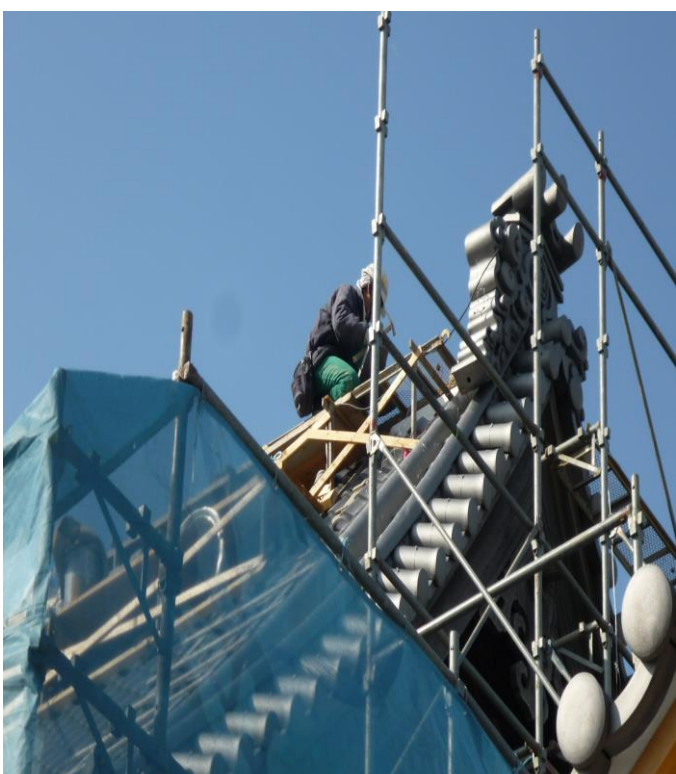
瓦の枚数は各種十数種類で約6700枚使用されている。その中でも鬼瓦は、高価なもので、一对で80万円もする。

今回、唯一昭和十三年に葺いた瓦を使った所があります。それは、向拝部分の先端に獅子の形をした瓦です。

この瓦葺替え工事の費用は、約 壱千万円で、内訳は、

- ① 瓦・材料費・運搬費で 560万円
- ② 瓦葺替え手間 480万円

と非常に安く出ています。今回の改修工事のための、絶対に必要不可欠な工事である、仮設工事(400万円)と解体工事(450万円)を合算した費用とほぼ同じに出来ていることに驚きました。



(四)その他雑工事

今回の本堂改修工事の付帯工事として雑工事を位置付け、予算が余った時点で、優先順位を付け発注する計画にした。(当初寺の予算は、五千万円だった。)

亀山建設の第一回費用見積が五千三百二十万円(税込抜き)であり、寺から四千五百万円で改修工事を完成したいと申し入れ、結果として、第二回見積は、寺の要求通り四千五百万円(税込抜き)であった。

最終的に客殿委員の諸岡委員及び責任役員会各委員と相談し、この金額で進めることにした。

主な減額した項目は、

①本堂全体のわずかな傾斜を補正する工事(不陸建て起し) 亀山建設からは、今回不陸建て起しの工事を行わないことで、以後致命傷になることはまず少ない、無理してやるべきことでもないとの助言があった。

(不陸建て起し約三百三十万円減額)

②筋換えて壊す所以外は漆喰壁の塗り替えを止め、漆喰壁の良好な場所をペンキ塗りに変更 (約百万円減額)

③客殿工事延長で本堂改修する場合、既に宿舎があり、水道・電気・鉄板養生等の必要がなく、仮設工事減額分

(約百万円減額)

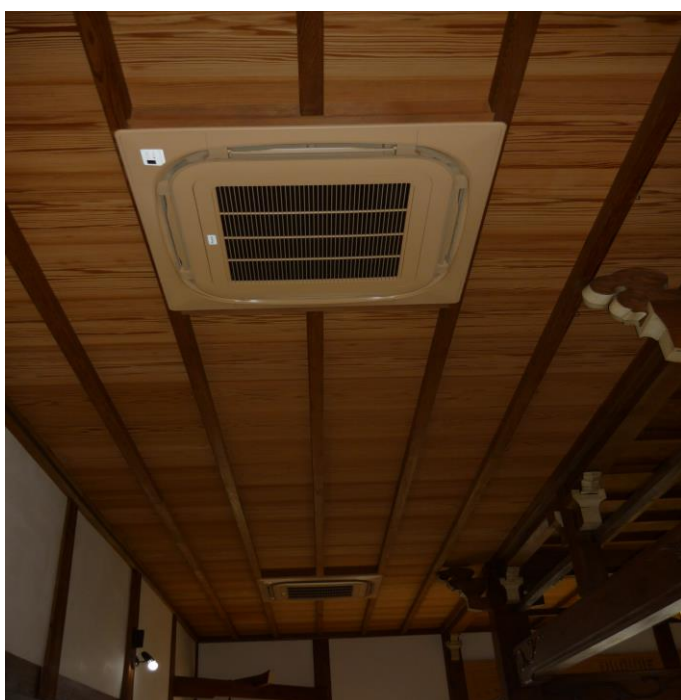
④本堂の外壁板再利用・電気料金・その他経費減額

(約百万円減額)

(a)冷暖房設備

動力源は、寺の電気源と別で、本堂外に設置され、二台の空調設備が、天井上に収納され本堂内に何も無いようにスッキリ装備されています。これも屋根工事で足場があり、天井の張替えタイミングに合わせ出来たことによるものです。

費用は二百四十万円でした。



(b)本堂水洗工事

当初は行わない予定でしたが、他の業者さんから見積した結果、亀山建設の方がかなり安く出来ることと、今回足場があるので、足場が無い時と比べ、百万円も安く出来る為、お勧めとのことである事にしました。亀山建設の提示は、外壁水洗百五十万円・本堂内水洗百十万円でした。そこで、予算上の制限を考慮して、外回りのみ注文し、本堂内は五月連休の5日間かけて、私が行うことにしました。

実際は、かなりプロの職人さんが私を指導してくれ

且つ手伝ってくれたお陰で、道具やワックスもタダで出来ました。
水洗いした結果、木の光が出て、見違える程美しくなり、感激しました。

「本堂の垂木・組物・小口にペンキ塗り・水洗いしている情景」



(c) その他工事 (合計二百十万円)

- ① 畳替 (63枚を新調・処分費用十六万円含む) 八十万円
- ② 駐車場ゲート・フェンス 五十万円
- ③ 水屋改修工事 三十万円
- ④ 参道敷石修理・駐車場ジャリ整備 十五万円
- ⑤ 散水洗三本増設・本堂屋根小屋新規柱・梁に防腐剤塗布・本堂雨戸修復・その他 三十五万円

「駐車場ゲート・フェンス設置」

「参道敷石修理・駐車場ジャリ整備」



「水屋修繕」



(五)収支報告

(a)総収入 五千七百万円

内訳 a)客殿建立繰越金 3128万円

b)寺の積立金 2000万円

c)特別寄進 200万円

d)その他 372万円

(b)総支払 五千七百万円

内訳 a)本契約分 4780万円

b)追加工事分 600万円

c)その他 320万円

(六)本堂改修業者

客殿建立の施工に引き続き亀山建設が担当した。

「亀山建設会社概要」

岐阜県関市稲口1037 設立昭和十二年。

社員数百名 ロボットを使用し自動制御活用。

先代社長・現社長は平成の名工に大臣賞受賞。

宮大工と近代技術融合し、岐阜の地を生かし、

木材を自社貯蔵庫に事前保管する技術集団。

(七)本堂改修スケジュール 約8ヶ月間

①改修工事着工 平成二十一年十月

②床下補強工事 平成二十一年十月

③本堂壁筋交・瓦降し 平成二十一年十一月

④瓦降し・屋根小屋補強工事 平成二十一年十二月

⑤屋根小屋・軒先補強工事 平成二十二年一～二月

⑥屋根地施工・瓦葺替え 平成二十二年三月

⑦瓦葺替え 平成二十二年四月

⑧左官・板金・電気その他 平成二十二年五月

⑨改修工事完了 平成二十二年五月

客殿東側に新設された庭園に昭和十三年に焼かれた鬼瓦を設置 (横 180cm 高さ 150cm)



四、収支報告

期間：平成21年10月より平成22年8月まで

収入

単位：円（万円単位に四捨五入）

科目	予算額	実績	備考
1. 本堂関連総収入			当初予想より
(1)寺 積立金	20,000,000	20,000,000	多くの方の寄付があっ
(2)客殿繰越金	31,280,000	31,280,000	た。10名
(3)志納金	500,000	2,000,000	
(4)その他			
寺の緊急時予備費及び運用費用より組み入れ	4,750,000	3,490,000	
収入 総計	56,530,000	56,770,000	

支出

単位：円（万円単位に四捨五入）

科目	予算額	実績	備考
1. 改修工事 本体 総費用 ①+②+③	55,000,000	55,410,000	総支出5千5百万円
(1)本契約工事費用――――①	50,000,000	47,800,000	内で収める予定が
内訳 ①補強工事/大工手間	18,000,000	18,000,000	若干オーバーした。
②瓦葺替工事解体含む	15,000,000	15,000,000	
③電気・左官・板金工事	9,500,000	8,300,000	「原因」
④仮設工事	5,000,000	4,000,000	追加工事
⑤木材代金	2,500,000	2,500,000	雑工事増加
(2)追加工事――――②	3,000,000	6,000,000	
内訳 ①冷暖房設備		2,500,000	
②本堂水洗い		1,500,000	
③畳交換		820,000	
④雑工事		1,180,000	
参道修理・水屋修理・シャッターフェンス新設・駐車場・ 防腐剤小屋丸太にぬる			
(3)付帯工事（植木・造園）――③	2,000,000	1,610,000	「造園費用減額」
内訳 ①植木造園費用	1,900,000	1,500,000	安行植木センターより
②セコム関連費用	100,000	110,000	植木購入・造園に
2、運用費用 総計	1,530,000	1,360,000	より削減
(1)大工接待・お茶7ヶ月分	420,000	350,000	
(2)完成慰労会・金一封(30万円)	510,000	500,000	
(3)その他運用費（額・掛け軸修繕費・水道電気代・技術料）	600,000	510,000	
支払 総計 （改修工事本体総費用＋運用費用総計）	56,530,000	56,770,000	

五、月次スケジュール

平成二十一年 十月

第 1 週	第 2 週	第 3 週	第 4 週	第 5 週	
荷物移動 本尊様法要道具 客殿に設置 (住職・大黒)	本堂内法材・外壁材 取り外し(2名) 石碑・本堂内養生 足場組	<床下 補強 > 大工2名 耐震壁解体 (トラック2台・5名)	本堂内 壁 筋交い補強 大工2名	> 第一現場確認 床下補強・本堂内 筋交い確認 古田棟梁・諸岡氏	

平成二十一年 十一月

第 1 週	第 2 週	第 3 週	第 4 週	第 5 週	
	< 床下火打梁・床下補強 > 大工2名	>< 本堂内壁下地 > 大工3名	>< 屋根小屋補強材加工 > 大工3名		
		< 瓦降り開始 クレーン1台・トラック1台 解体手作業5名	> 野地板撤去 クレーン1台・トラック2台 解体手作業6名		
	○ 床下配線確認				

平成二十一年 十二月

第 1 週	第 2 週	第 3 週	第 4 週	第 5 週	
<野垂木打ち> 大工3名 <岐阜工場小屋 補強梁加工>	< 屋根小屋補強梁設置 > クレーン車1台・大工4名 大工5名 工場より搬入 4 tトラック	<軒先・桔木型取>	< 岐阜工場 茅負・桔木加工作業 >		
<屋根地解体> クレーン1台・トラック1台 解体手作業5名		屋根小屋 電気工事1名			
	8日 突風、本堂シト 危険な状況	<向拝前の小屋両サイド・中央部分腐り発見> 調査時点で見えない所			

平成二十二年 一月

第 1 週	第 2 週	第 3 週	第 4 週	第 5 週	
	< 軒反り調査 > 大工 4 名 < 岐阜工場 茅負・桔木加工 > 工場より搬入		< 軒反り・桔木 設置 > 大工 4 名 大工 5 名 工場より搬入 クレーン車 1 台 二日作業		第 2 回 屋根小屋 補強検査
第二回検査内容 1. 立会い者 亀山建設社長・古田棟梁・諸岡氏 2. 検査内容 ①向拝軒先腐り状況確認と対応策 ②屋根小屋補強確認 ③客殿建立 1 年後床下状況確認 ④第 1 回確認会の対応状況フォローアップ					

平成二十二年 二月

第 1 週	第 2 週	第 3 週	第 4 週	
< 屋根地施工 > 大工 5 名 電気工事 1 名 1 日	3 名 大工 4 名 電気工事 1 名 1 日 古田棟梁 床下・小屋点検	< 向拝・箕甲 施工 > 大工 5 名 瓦屋 現場確認	瓦搬入 4 t トラック 2 台 作業員 2 名	
屋根下板 搬入 (4 t)		丸太 2 本 4 t トラック クレーン 1 台		

平成二十二年 三月

第 1 週	第 2 週	第 3 週	第 4 週	第 5 週	
< 屋根地施工 > 大工 3 名 < 工場造作材準備 >	< 妻壁施工下地 > 大工 3 名	< その他雑工事 > 水屋修繕		屋根板 搬入	
< 瓦 棧 打 ち > 瓦職人 4 名	< 屋 根 葺 施 工 > 足場搬入・瓦搬入 トラック 2 台	瓦 職 人 4 名	瓦搬入(トラック 1 台) 屋根の土搬入 1 台		
< 荒壁・左官 2 名 >	< 妻壁 施工 > 左官 4 名 < 板金屋 > 2 名		< 漆喰壁下塗り > 左官 3 名 < 春彼岸作業中止 >		
	< 暖房設備・本堂水洗い見積依頼 > 台風並み突風 ・足場崩れる・仮設トイレ飛ぶ ・テント飛ぶ				

平成二十二年 四月

第 1 週	第 2 週	第 3 週	第 4 週	第 5 週	
	<壁下地> 大工 2 名	<天井板破損発見・対応検討> 大工 2 名	天井板 破損 対応 施工 大工 2 名 大工 4 名・8 名・7 名 4tトラック	>	
< 屋 根 葺 施 工 > 瓦 職 人 3 名					<足場撤去> トラック 3 台 作業員 3 名
<妻壁施工> 左官 3 名	<軒下壁施工> 左官 3 名				
		<板金> 1 名	<板金> 1 名	<板金> 3 名	<板金> 2 名・1 名
	<垂木塗装> 3 名	<本 堂 外 部 水 洗 い> 3 名			
	<電気配線> 1 名	<冷暖房設備> 2 名	<冷暖房設備> 2 名	<畳寸法取り>	
本堂内 雨漏れ発見 「原因」三月の時雨 養生が良くなかった。	石屋スロープ 寸法取り	<水屋修繕>	社長・古田棟梁 天井板破損 状況確認 「原因」本堂内落下物養生 ネット・ベニヤ保護がされてない為 「対応」本堂入口全体新規天井板変更 本堂奥天井板は、割れたものは修復し 割れてないものと組み合わせて貼る対応	<本堂雨戸修繕>	

平成二十二年 五月

第 1 週	第 2 週	第 3 週	第 4 週	第 5 週	
天井板 6 名	< 床 補 強 > 大工 2 名	<本堂外壁板修繕> 大工 2 名	<客殿床板廊下修繕> 大工 2 名 <掃除片付け>	社内検査 社長・古田棟梁	
	<漆喰壁仕上げ> 左官 4 名		<客殿廊下壁仕上げ> 左官 4 名	<スロープ 修繕> <参道修繕> <駐車場整備> 畳調整	
< 本 堂 外 部 水 洗 い > 2 名		<畳搬入 2 名>	<大間畳搬入 2 名>		
	<配線・自火報知復旧> 電気屋 3 名	<電気工事> 1 名	<自火報知テスト> セコム 2 名・電気 3 名	<自火報知テスト>	
	<仮設住宅撤去> <養生鉄板撤去> クレーン車 1 台・トラック 2 台	<U 字溝掃除> 作業員 2 名	<参道石修繕> 石屋 2 名	<U 字溝掃除> <トバ撤去> ゴミ撤去	
<連休作業休み> 住職：本堂内 水洗い 大黒：床下掃除	<慰労会>		<仏具移動> 本堂での 2 名 法要開始	<植木移動> 植木屋 4 名 5 月 30 日 報恩会	
			客殿より本堂へ 本尊様・法要道具移動 (住職・大黒)		
					・屋根小屋梁雑巾掛け ・ボルトナット締め確認 ・板の割れ確認 (住職)

五、本堂改修工事風景あれこれ

(一)床下補強・本堂内筋交い追加状況

「床下の柱 ボルト・ナットで固定」



「本堂内壁に筋交いを新設」



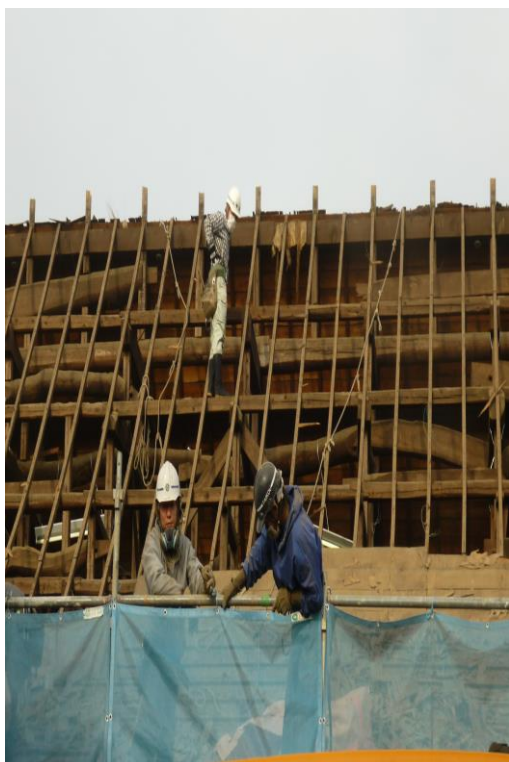
(二)瓦降り作業風景

①「大型クレーンで瓦を下ろす様子」



②「瓦が撤去され、下地が現れた状況」





④ 下地板全て撤去完了」



③ 「下地板を剥がしている様子」



「42 cmの太い梁

法堂の通柱の上部分」

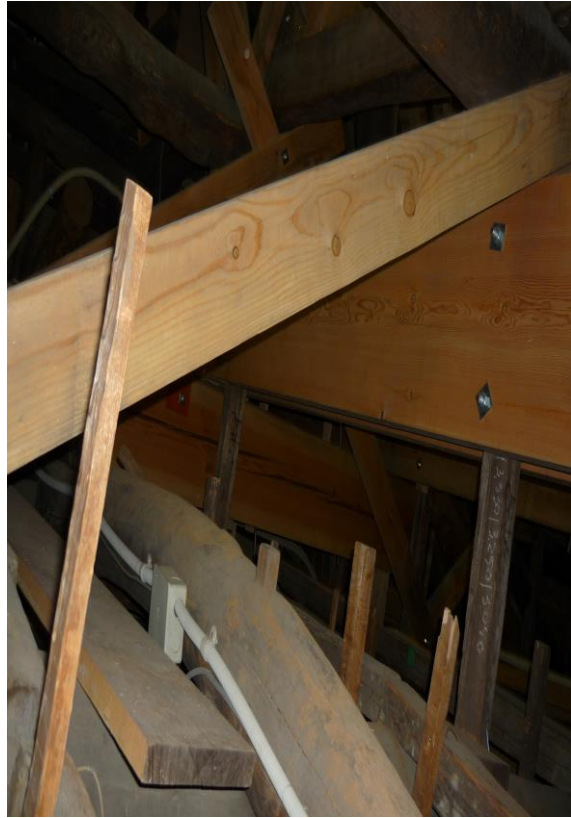


(三) 屋根小屋補強

「本堂西側の軒先」



「屋根小屋東側 妻壁裏側」



「屋根小屋中央部分」

「白い管は、冷暖房装置の配管」



「屋根小屋 北奥」



「屋根小屋 西側」

「本堂南西角の軒先を吊り上げる為、桔木を二本組新設」



「本堂西中央の軒先を吊り上げる為の桔木新設」



（四）屋根葺替え

① 「下地板を貼る準備、新しい板を骨組みに追加している様子」



② 「新しい下地板が張られた状況」



③ 「瓦の下地板の上にシートを張り、防水している」



④ 「シートを止め、瓦の下地板施工が完成した」



⑤ 「瓦を屋根に乗せ、葺き替え開始」



⑥ 「瓦を敷いている様子」



⑦ 「瓦葺替え完成」



(五) 本堂からの発見

一つは、本堂基礎のコンクリートに石が埋め込まれてありその石に本堂の再建の当時の記録がありました。石の場所は本堂の東、客殿から本堂に入る渡廊下の下の基礎の所です。

萬年山東陽寺大正十二年九月大震火災為浅草区

高原町依伊興村狭間移轉

昭和五年七月吉祥日 復興本堂建立

現住廿四世 圓晃隆満

檀家総代 木下藤二郎

同 長野文造

同 中村つね

監督人 伊藤新太郎

棟梁 鯨井文蔵

石工統領 元井義次郎

鳶頭 田中辰五郎

大工 鯨井伊助

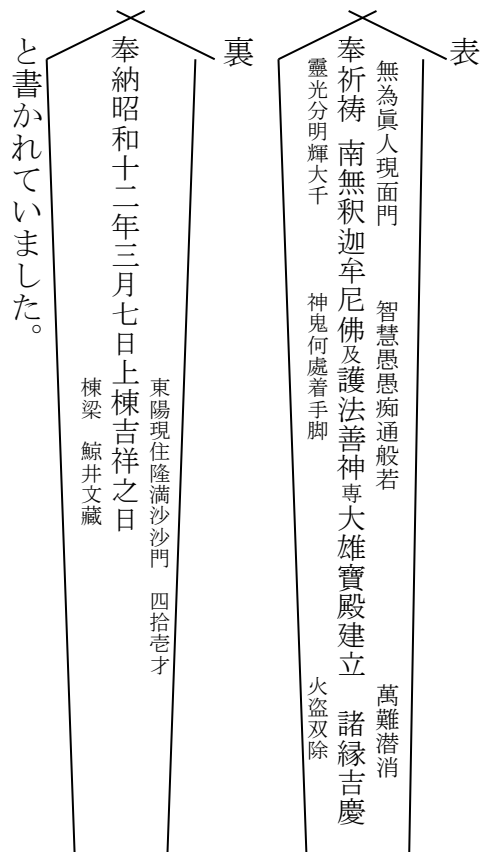
石工 頭人 木原浅次郎

当寺檀信徒 一同

と彫られています。

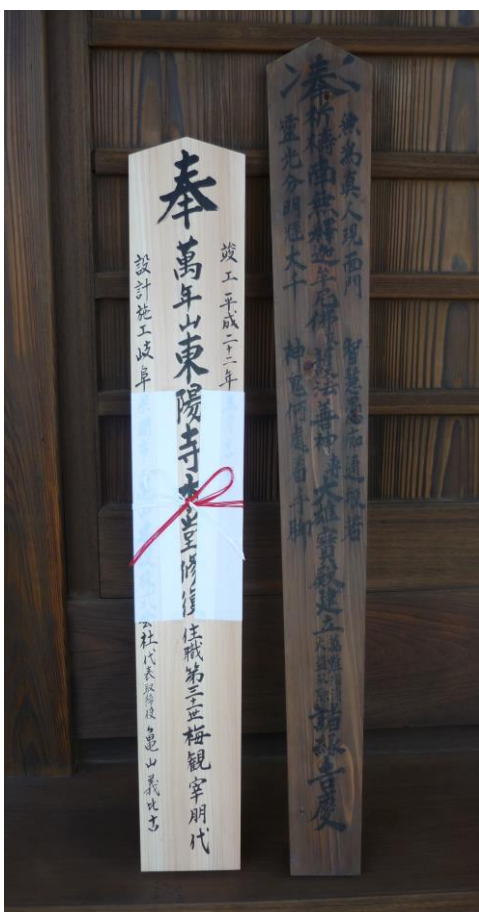


二つは、屋根裏に棟板が発見されました。
この棟板は、棟梁が建てた本堂を後世に伝える貴重な資料です。
棟板の大きさは、横十七cm・高さ百四cm 有り、
私の祖父 当山二十四世円晃隆満大和尚四十一歳の時に書いたものと推測されます。



と書かれていました。

右が昭和十三年の棟板・左今回本堂に掛けた棟板



(六)本堂改修工事完了後宿舍撤去



七、寄付一覧

総額 二百万円

五十万円	長野靖様
四十万円	新井昭司様
三十万円	佐藤進様
二十万円	黒川泰芳様
十万円	井上時子様
十万円	伊藤晴國様
十万円	白倉房子様
十万円	角田昌隆様
十万円	小林トク様
十万円	豊田正一様

八、あとがき

今回、あとがきをお寺の責任役員黒川泰芳様に、頂きました。

此の度、「本堂改修工事の日記」が創刊され、誠におめでとう御座います。「客殿建立の軌跡」の第二弾という事で、たいへん興味深く拝読致しました。

顧みますと、宰朋和尚様が当山の御住職就任第一声として十ヶ年計画で客殿建立を完成させる事を表明されました。そして予算編成や資金調達及び施工業者選定等、持ち前のバイタリティと緻密な判断力で我々役員会をリードされ、計画通り建立する事が出来ました。当時、私も客殿委員を兼務して居りましたので、客殿建立の建設工事経過につきましては、亀山建設本社工場の視察に随行したり、地鎮祭や棟上げ式そして落慶式に至るまで、基礎工事から建屋の建築工事まで時折お寺に参詣する度に拝見して居りました。従って或る程度、客殿全体の構造を理解出来、素晴らしい客殿の竣工を喜んで居りました。

さて次は悠々本堂建て替え工事が最大課題と思い最低五、六年計画位で達成出来るであろうと自分勝手の予測を立てて居りましたが、既に宰朋和尚様は亀山建設工事スタッフと、切り詰めた予算内で万全な補強工事を含めた本堂の改修工事を発注される事を役員会に提案され、その結果、客殿完成後、直ちに準備に入り、平成二十一年十月着工から僅か八ヶ月で同二十二年五月までに完成されました。

一見、突貫工事の様に見受けられ、基礎部分や内部床下や内壁及び屋根裏等の補強工事につきましては殆ど外見する事が出来ず、本書で写真入りの詳細な説明書きを拝読し充分に理解出来ました。成程これ程迄、完璧に補強された故去年の東日本大震災の、あの激しい長振動にも耐えられたのだと納得しました。

其れにしても私が予測した事が実行されていたら本堂は無残に崩壊していたのではないかと、背筋が凍る思いがしました。今更ながら宰朋和尚様の強運と慧眼に益々敬服の念を深く致しました。

此の度、第一作「客殿建立の軌跡」及び第二作「本堂改修工事の日記」を拝読し、一貫して感じました事は、これ程迄の大工事に、裏方として和尚様を献身的に支えられた奥様の内助の功を称えますと共に

工事に携わった亀山建設関係者の皆様の御努力に衷心より感謝申し上げます。

末筆になりましたが、東陽寺様の益々ご発展と檀信徒の皆様の健康御繁栄をお祈り申し上げ、拙文にて汗顔赤面しつつ筆を置かせて頂きます。

合掌

黒川泰芳拝

平成二十年八月三十一日 客殿上棟式 東陽寺にて撮影





「編集後記」

今回の本堂改修工事の日記を作成するのに、改修工事完了からあつという間に二年の日が過ぎてしまいました。

第一作の客殿建立の軌跡の時と違い、今回は苦勞しました。と言うのは、第一作の時は、初めから本を作成しようと考え本の構成を最初に決め、それに沿って七年間写真を日々撮りながら、暇な時を見つけては、製本を編集しつつ、平成二十一年四月五日客殿完成の三日後には、あとがきを残し完成していました。

今回は、この一ヶ月集中し、全て手作業で四百部を大黒と二人で、ただで作りました。

もう一度読み返してみると当時を思い出します。

亀山建設の古田棟梁・藤吉さん・山田さんありがとうございました。客殿建立に引き続き本堂の改修検査に何度も立会って頂き技術アドバイスをありがとうございました。

皆様のお力を頂き、無事本堂改修工事を完成したことを心から喜び編集後記とします。